

開催の目的				
地域別構想の検討の段階にて、地域別のワークショップを複数回実施し、朝霞市のまちづくりの方向性や将来像の検討に反映するとともに、地域が主体となったまちづくり活動の機運を高めることを目的に実施しました。				
開催の概要				
朝霞市を5つの地域に分け（現行の都市都市マスタープランの地区分けを踏襲）、地域別のワークショップを行いました。				
	第1回	第2回	第3回	第4回
日時	4月26日（土）10：00～12：00	5月10日（土）13:30～15:30	5月24日（土）10:00～12:00	6月7日（土）10:00～12:00
場所 参加人数	内間木地域：上内間木町内会館（2人） 北部地域：産業文化センター（4人） 西部地域：弁財市民センター（8人） 東部地域：東朝霞公民館（5人） 南部地域：市役所（4人）	内間木地域：上内間木町内会館（5人） 北部地域：宮戸市民センター（4人） 西部地域：リゾンコミュニティギャラリー（7人） 東部地域：東朝霞公民館（1人） 南部地域：市役所（4人）	内間木地域：内間木公民館（4人） 北部地域：産業文化センター（4人） 西部地域：弁財市民センター（4人） 東部地域：東朝霞公民館（4人） 南部地域：市役所（5人）	会場：産業文化センター ※全地域合同開催 参加人数 内間木地域：5人 北部地域：4人 西部地域：4人 東部地域：5人 南部地域：5人
テーマ	地域の良いところと改善したいところを話し合おう	地域づくりの目標を設定しよう	みんなで議題を決めて話し合おう	私たちからの提案 （この地域で特に進めていきたい取組の提案）

振り返りアンケートの結果

〈新たな気づきや意見が「あった」と回答した方はどんな気づきがあったか記入してください〉

まちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・古い商店街を活用したい。(北部地域) ・水害の被害や町内会の存続の危機があることから、地域内での助け合いが必要だと思った。(西部地域) ・同じ西部地域に住んでいても、感じている課題が人によって異なることが分かった。(西部地域) ・道路の事情を知り、区画整理の大切さに気が付いた。(北部地域) ・朝霞市全体のつながりを考えるきっかけになった。(南部地域) ・各地域の共通の問題は、道路の拡充と公共交通の利便性の向上であると思った。(東部地域) ・地域によって課題は様々だが、共通してまちづくりに対する想いが強いと感じた。(内間木地域)
グループワーク・議論結果の共有
<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いのなかで「残したいもの」や「欲しいもの」が見えてきた。(西部地域) ・地域ごとに特徴があることがより分かった。(南部地域) ・他の人の考えが聞けて良かった(北部地域) ・参加者それぞれ視点が異なり、自分にはない視点に気づくことができた。(内間木地域) ・浄水場に関することなど、他の地域の課題に気が付いた。(西部地域) ・3回目でグループワークの内容が具体的になった。(西部地域) ・自分の見えていない問題に気づけた。(内間木地域) ・まずは「ゆるいつながり」という言葉が良かった。(北部地域) ・同じ市内でも特性やニーズが異なる点も多くあった。(東部地域) ・地域ごとの特性が出ている意見を聞くことができ、とても参考になった。(内間木地域)

〈感想〉

まちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・役所に要求するだけでなく、市民ができる事もあると思った。(北部地域) ・地域には特性があり、色んな考え方があって良いと思った。地域全体で協力してより良いまちに出来たら良いと思った。(南部地域) ・市民、市との共助をもっと発展させたい。(南部地域) ・とても勉強になり、地元を良くしたいという気持ちが高まった。(北部地域)
グループワーク
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題や解決方法等について議論出来たことは非常に良かった。(西部地域) ・話し合いが活発にできて面白かった。また、各地域の意見も特徴があって良かった。(東部地域) ・朝霞市を盛り上げたい人や住みやすいまちにすることを考える人が多くいることが分かって嬉しかった。(南部地域) ・同じ地域に住む人と話せたことが良かった。(西部地域)

～第4回ワークショップ（全地域合同開催）の様子～



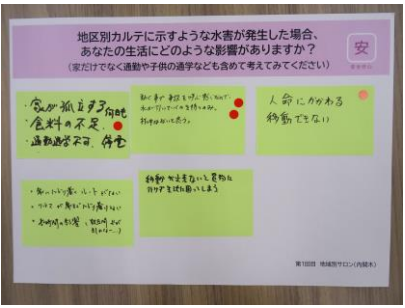
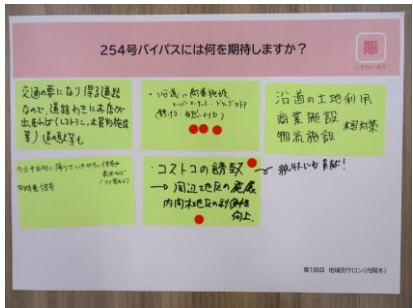
内間木地域【第1回】

内間木地域の「良いところ」としては、「自然」に関するキーワードが多く挙げられました。254号バイパスの活用に関する議論もありました。一方、「改善したいところ(課題)」では、「水害」や「交通の不便さ」が挙げられました。

【ワークショップの様子】



【設問ボードの記入例】



全体

設問
地域のなかで、あなたが一番好きな場所はどこですか？その理由も合わせて教えてください。



意見の要点
荒川の堤防や新河岸川などの自然に関する場所が挙げられました。

全体

設問
この地域の特徴を表すキーワードを5つ挙げてください。



意見の要点
254号バイパスやバスなどの交通や自然、水害に関するキーワードが多く挙げられました。

暮らし

設問
あなたはこの地域に住み続けようと思えますか？ そう思う（思わない）理由は何ですか？（この地域に住んでいない方は、この地域に住んでみたいと思えますか？）



意見の要点
交通や水害に関する懸念点が挙げられましたが、治水対策が進むようであれば、内間木地域に進み続けたいという意見への賛同がありました。

賑わい

設問
254号バイパスには何を期待しますか？



意見の要点
沿道の土地利用の活用について議論されました。例えば商業施設の誘致によって、周辺地区の発展や内間木地区の利便性が向上するという意見がありました。

移動

設問
地域のなかで、普段移動するうえでの問題点は何ですか？



意見の要点
バスの本数が少ないこと、バス停までのアクセス性が良くないことが挙げられました。

持続可能

設問
この地域らしさを感じる自然や緑・水の資源はどこにありますか？



意見の要点
荒川や新河岸川が挙げられました。荒川の草木が整備されている一方、新河岸川の整備が不十分であるという意見への賛同がありました。

安心・安全

設問
地区別カルテに示すような水害が発生した場合、あなたの生活にどのような影響がありますか？（家だけでなく通勤や子供の通学なども含めて考えてみてください）



意見の要点
「移動」に視点を当てた議論がされました。水害によって「移動」が制限され、食糧不足や孤立住宅が発生する可能性があるという意見が挙げられました。

ワークショップで出された意見
・荒川の堤防→自然が豊かだから
・荒川や新河岸川→自然が多く残っているから
・内間木神社→おごそかな気持ちになれるから
・荒川沿いの土手道→散歩等に良いと感じるから
・荒川の土手や公園→のびのびできるから

ワークショップで出された意見
・みどり、交通の不便さ、川、内水、254号バイパス
・河川、事業所の多さ、車社会、浸水被害、地縁の強さ
・自然、芸術、254号バイパス、水害、内間木公園
・水害に弱い、自然が豊か、農地の減少、254号バイパス、交通環境が不便
・道路の浸水、トラックの走行による路面の早期劣化、人口の停滞、歩道整備が不十分 など

ワークショップで出された意見
・そう思う →治水対策が進むようであれば、自然が残る内間木地区に住み続けたい
→自然が豊か・254号バイパスが開通すれば住み続けたい
・そう思わない→生活、交通が不便だから
→浸水の心配がない高台に移り住みたいから
→住民数が少ないので、地域役が不足し兼任の仕事が増えるから

ワークショップで出された意見
・交通の要になり得る道路なので、沿道にお店や道の駅等を誘致する
・沿道に商業施設やスーパーマーケット、ドラッグストアを誘致する
・沿道の土地利用として商業施設や物流施設を誘致し、水害対策を行う など

ワークショップで出された意見
・バス停が遠く、わくわく号の便数が少ない
・既存道路に対して通行する車両のサイズが大きい
・電車に乗るために車を利用すると、駐車場のコストがかかる
・年をとってきた時に、何で移動するのか（車？自転車？徒歩？） など

ワークショップで出された意見
・荒川の河川敷、堤防、水田、神社
・荒川はそれなりに整っているが、新河岸川は草が多い
・荒川、新河岸川、内間木神社

ワークショップで出された意見
・家が孤立する、食料不足、通勤通学ができなくなる、停電
・移動できなくなる（家にたどり着くルートがない、車が家までたどり着けない）
・数日間水が引かない
・移動ができないと買い物に行けず、生活に困る など

内間木地域【第2回】

まちづくりの5か条(将来への想い)

暮らし

冠水・浸水対策をし、住み続けたい
なるまち・戻ってきたくなるまち

議論の要点

地元を離れる人が多い、後継者が
不足しているという課題が挙げられ、
「住み続けたい」「戻ってきたく
なる」には、冠水・浸水対策が必要
不可欠であるという議論がされました。

快適な移動

公共交通の利便性の向上

議論の要点

自宅からバス停まで遠いこと、バス
に人が乗り切れないことが問題として
共有されました。その改善策として、
バスを毎日利用する人の数の把握や
デマンドの活用など、計画的な対応を
求める意見が挙げられました。

安心・安全

歩道の安全を確保する（子ども～高
齢者が安心して通れるように）

議論の要点

道幅の狭さや歩道の整備不足を理由
に、子どもや高齢者の通行の安全性に
ついて懸念する意見が出されました。

賑わい

内間木公園の再整備
254号バイパス沿道の活用

議論の要点

内間木公園の再整備に対する期待の
声が挙げられました。254号バイパス沿
道の活用については、内間木地域以外
の人も利用したくなる施設を整備する
ことが賑わいの創出につながるという
意見が出されました。

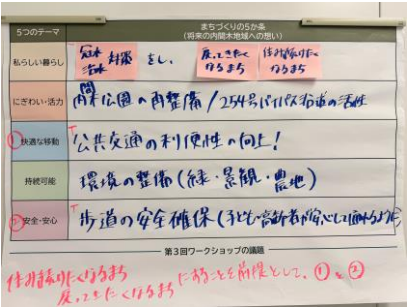
持続可能

環境の整備（緑・景観・農地）

議論の要点

朝霞大橋や朝霞水門の景観や自然を
将来に残すためには、「環境の整備」
が必要だという意見が挙げられました。
また、ライトアップなどをするること
によって地域外の人にも内間木地域の魅
力的な景観に関心をもってもらいたい
という意見も挙げられました。

【模造紙の記入例】



次回の議題

「公共交通の利便性の向上」と「歩道の安全を確保する（子ども～高齢者が安心して通れるように）」
（住み続けたい・戻ってきたくなることを前提とする）

内間木地域では、まちづくりの5か条の中から次回（第3回）のワークショップの議題を選びました。行政と市民の両面から課題解決案を考えられることから「暮らし」、1番身近なテーマであるということから「快適な移動」、交通事故が起きてから対策をするのでは遅いことや他のテーマに比べて課題解決策が出されていないという視点から「安心・安全」のテーマで考えたまちづくりの5か条が議題の候補として挙げられました。

「快適な移動」と「安心・安全」のまちづくりの5か条は、「住み続けたい」「戻ってきたい」という想いにも繋がることから、その想いに繋げることを前提として、「公共交通の利便性の向上」と「公共交通の利便性の向上」について議論することが決定しました。

【マッピングシート「魅力」と「課題」】



内間木地域【第3回】

内間木地域では、2つの議題について話し合いました。議題1「歩道の安全を確保する」では、大型トラックが通行する道路や信号のない横断歩道での安全性に対する懸念の意見が挙げられ、住民や行政による対策について話し合いました。議題2「公共交通の利便性の向上」では、公共交通に関する課題への対策に加えて、住民自身が公共交通を積極的に利用する意識を持つことの重要性を指摘する意見がありました。

議題1 歩行者の安全を確保する（子ども～高齢者が安心して通れるように）

※住み続けたい・戻ってきたいことを前提とする

※下記枠内のうち【 】内の番号とページ下部にある地図上の番号が対応しています

問題・困りごと

・スピードを出して通行する車両が多い。【1】

・信号機のない横断歩道（阿弥陀付近）では、交通量が多く、歩行者が安全に横断するまでに時間を要する。【2】

・通学路でのトラック通行が増加しており、トラックが通過する際には歩道の空間が確保されず、歩行者の通行が困難になる。特に雨天時には道路端が冠水し、歩行者はやむを得ず車道中央を歩くことになり、危険性が高まる。【3】
・生活道路へのトラックの進入が見受けられ、安全面への懸念がある。【4】

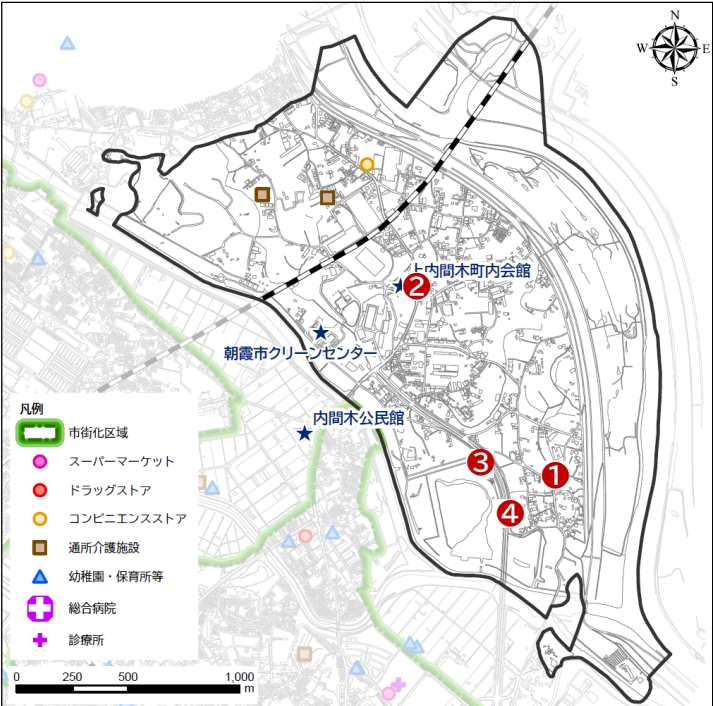
取組内容とその役割分担

・カラー舗装やハンプの設置など、車両が減速する工夫をする。（行政）
・町内会等でトラックのスピード減速に関する署名を集め、トラック会社に徐行をお願いする。（住民）

・住民が看板の案を考え、行政が警察に対して看板設置の相談をする。（行政・住民）

・住民と行政で役割分担をして側溝にゴミや泥などが詰まらないように管理する。
→住民：住宅の敷地やその周りを管理する
→行政：規模の管理が大きいものを管理する
：引っ越してきた住民や会社に側溝の管理に関するアナウンスをする

ワークで使用した地図のイメージ



議題2 公共交通の利便性の向上

※住み続けたい・戻ってきたいことを前提とする

問題・困りごと

・目的地がバスの運行ルートに含まれていない。

・自分が乗車した後に、後から乗車する方がバスに乗り切れないのではないかと不安を感じる。

・バスを利用したい時間にバスが来ない。
・高齢者目線で考えると、自宅からバス停まで遠い。

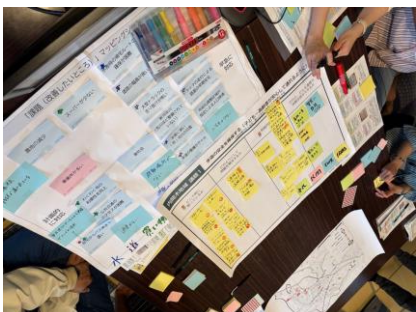
取組内容とその役割分担

・町内でわくわく号の運用ルートを提案する。（住民）

・乗降者数が分かるようにするなど、バスアプリの開発を進める。（行政）

・デマンド交通・タクシーの活用をする。（行政）
・高齢者向けのスマホトレーニング教室を実施する。（行政）

グループワークの様子



内間木地域【第4回】

「取組の提案」では、住民と事業者や行政との「コミュニケーション」が「私たちからの提案」の軸になっていました。重点課題以外にも、冠水・治水対策として、住民が自身の自宅周辺の側溝の管理をすることが提案として挙げられました。

「方針図の提案」では、内間木地域を他の地域の方々にも知ってほしい、利用してほしいという想いが感じられる意見が多く挙げられました。

取組の提案

重点課題1：車両の通行に対する歩行者・自転車の安全対策

問題・困りごと	取組方針（目的）	具体的な取組	私たちからの提案
<ul style="list-style-type: none">・スピードを出して通行する車両が多い・トラックが通行する際には歩道の空間が確保されず、歩行者の通行が困難になる	<ul style="list-style-type: none">・車両が減速する工夫をする	<ul style="list-style-type: none">・カラー舗装をする・スピード減速に関する署名を集め、トラック会社に提出する	<p>住民が地域の事業者とコミュニケーションをとる！</p> <p>地域の事業者、特にトラックの出入りがある企業が、町内会や自治会に参加し、地域住民とのコミュニケーションの機会を持つことで、「トラックの減速」などに関する意見交換がしやすくなるという議論がされました。また、横断歩道や停止線が薄くなっていないか、標識に損傷がないかの見回りをするといった取組も挙げられました。</p>
<ul style="list-style-type: none">・生活道路をトラックが通過する	<ul style="list-style-type: none">・生活道路でのトラックの走行を減らす	<ul style="list-style-type: none">・生活道路でのトラックの走行の抑制を促すような看板案を考える	
<ul style="list-style-type: none">・信号機のない横断歩道（阿弥陀付近）では、交通量が多く、歩行者が安全に横断するまでに時間を要する	<ul style="list-style-type: none">・横断歩道で車両が停止する工夫をする	<ul style="list-style-type: none">・住民で横断歩道で車両の停止を促すような看板案を考える	

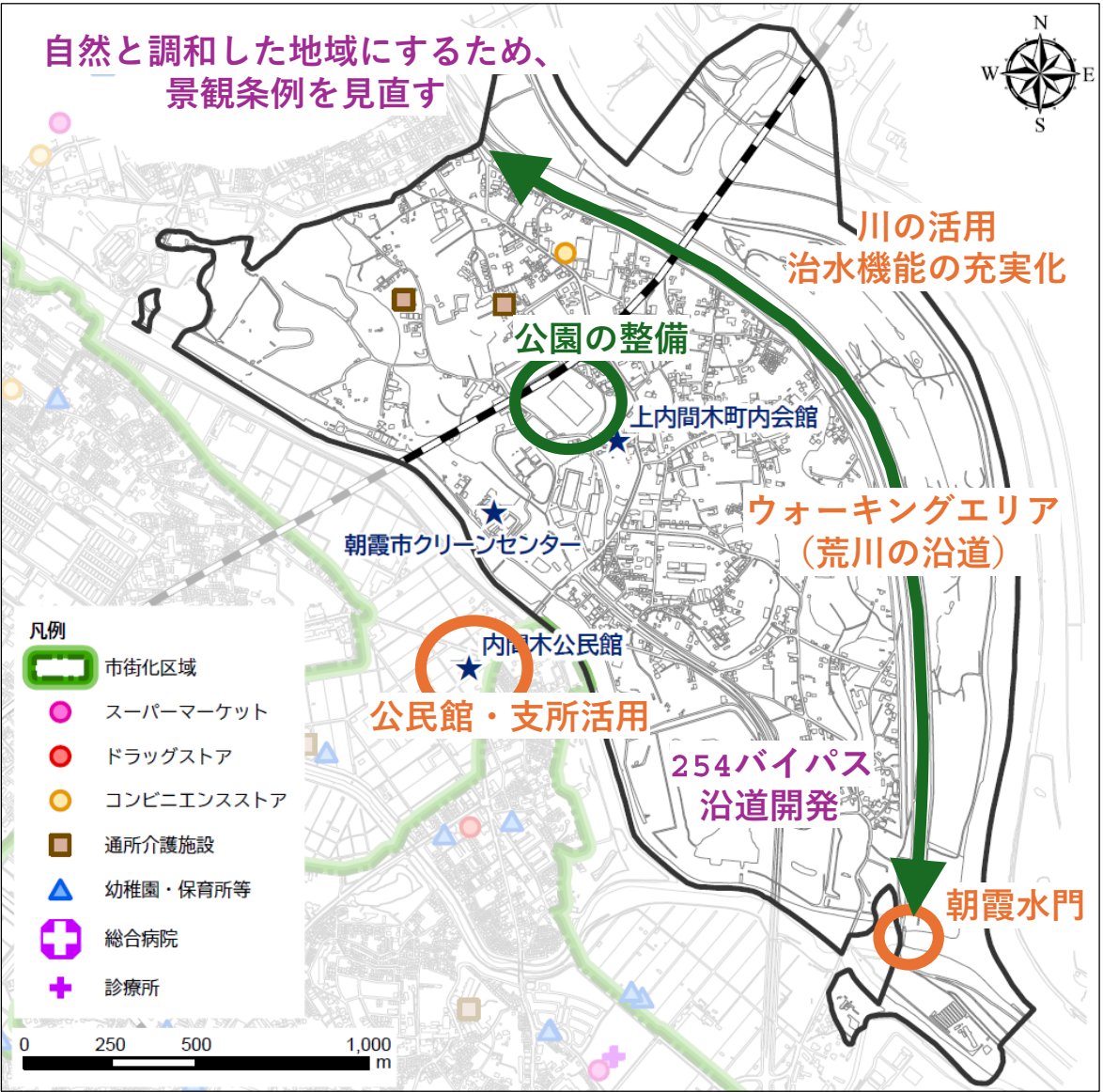
重点課題2：公共交通の利便性の向上

問題・困りごと	取組方針（目的）	具体的な取組	私たちからの提案
<ul style="list-style-type: none">・目的地がバスの運行ルートに含まれていない	<ul style="list-style-type: none">・バスの運行ルートの見直しをする	<ul style="list-style-type: none">・バスの運行ルートを提案する	<p>住民から市に対して、地域が抱えている具体的な課題・意見を共有する。</p> <p>地域内の課題や公共交通に関する具体的な意見を整理・把握し、それらを市に適切に共有していくことが、住民としての取り組みの第一歩であるとの意見が出されました。</p>
<ul style="list-style-type: none">・自分の後からバスに乗る人が乗り切れないのではないかという不安がある	<ul style="list-style-type: none">・乗降客数が分かる仕組みを整える	<ul style="list-style-type: none">・バスアプリの開発を進める	
<ul style="list-style-type: none">・乗りたい時間にバスが来ない・バス停が遠い	<ul style="list-style-type: none">・新たな交通手段を検討する	<ul style="list-style-type: none">・デマンド交通の検討を進める・高齢者へのスマホトレーニング教室を開催する	

グループワークと発表の様子



方針図の提案



方針図について、**「ポテンシャルの活用」**と**「土地利用の検討」**の大きく2つの観点からの提案がありました。荒川や朝霞水門といった地域資源のポテンシャルを活かし、ランドマークとして整備することで、内間木地区の認知度が他地域にも広がるのではないか、という意見が出されました。あわせて、国道254号バイパス沿いの土地を開発することで、より多くの人に利用される地域になる可能性があるという意見もありました。

北部地域【第2回】

まちづくりの5か条(将来への想い)

暮らし

若い世代を中心に選択肢が多い
インクルーシブなまち

議論の要点
「浄水場と地域の共存（地域住民の
利便性等に寄り添った浄水場のあり
方）」に関する議論があったほか、買
い物等の場面で「選択肢が多い」まち
にしたいという意見が出されました。

賑わい

まちに愛着をもち、
自らにぎわいを創出したいまち

議論の要点
朝霞市の名産である「ニンジン」を
活用した（苗の配布、緑被率にちなん
で「ニンジン率」を設ける等）賑わい
づくりをする案や、市民が庭づくりを
楽しむことによる賑わいづくりの案が
出されました。

快適な移動

人が中心の
安全に移動しやすいまち

議論の要点
将来にわたり人口減少が見込まれる
ことから、車両の通行が多少不便に
なったとしても、歩行者の通行の安全
性やハンディキャップのある方々の安
全性を高めるべきだという意見が多く
出されました。

持続可能

目に見えるみどりが
多いまち

議論の要点
屋上緑化等により緑被率（上空から
みたみどり）を高めるのではなく、ゴ
ミ集積所の緑化等、緑視率（目にみえ
るみどり）を高めていくべきだという
意見が出されました。

安心・安全

犯罪しにくく、
災害時に逃げやすいまち

議論の要点
防犯活動に対する補助の拡充の要望
があったほか、災害による危険度を可
視化したいという意見が出されました。

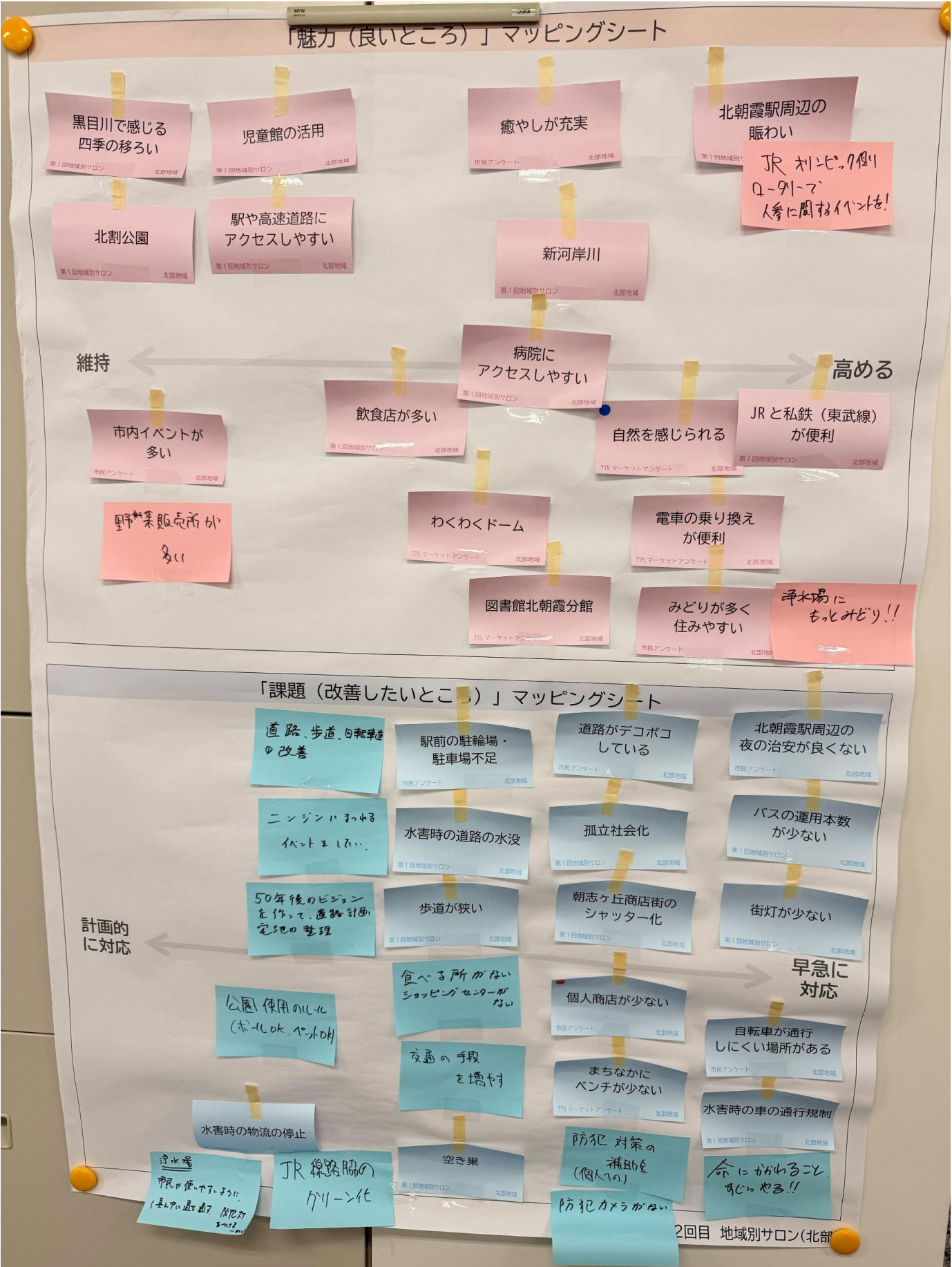
次回の議題

「道路」・「みどり」・「浄水場」

北部地域では、「浄水場との共存」を新たな視点とした活発な議論が行われ、「浄水場にみどりを増やしたい」や「浄水場を市民が使いやすいようにしたい（現状迂回を強いられるため敷地内に道路を新設する、防犯灯を設置する等）」等の意見が多く出されました。

第3回でも引き続き浄水場について議論するとともに、議論の時間が足りなかった「道路（快適な移動）」や「みどり（持続可能）」についても追加の議論を行うこととしました。

【マッピングシート「魅力」と「課題」】



北部地域【第3回】

内間木地域では、2つの議題について話し合いました。議題1「歩道の安全を確保する」では、大型トラックが通行する道路や信号のない横断歩道での安全性に対する懸念の意見が挙げられ、住民や行政による対策について話し合いました。議題2「公共交通の利便性の向上」では、公共交通に関する課題への対策に加えて、住民自身が公共交通を積極的に利用する意識を持つことの重要性を指摘する意見がありました。

議題1 快適で安全・安心な道路

※下記枠内のうち【 】内の番号とページ
下部にある地図上の番号が対応しています

問題・困りごと

取組内容とその役割分担

・自動車交通量が多く、危険を感じる。
【①】

- ・車両の速度規制により歩行者の安全性を高める。
（警察）
- ・車両を一方通行にし、歩行者の安全性を高める。
（警察）
- ・本田技研工業(株)と協働し、交通事故が発生しにくくなるようなまちづくりを進める。
（行政・民間・市民）

・歩道が狭く、歩きづらい。【②】

- ・歩道を新設する。（行政）

・鉄道（JR・東武）や浄水場、新河岸川に分断されているため、行き来がしやすくなるような動線がほしい。

- ・朝霞台駅を平面で（階段を上り下りせずに）通り抜けられるようにする。（民間）【③】
- ・浄水場の敷地内に歩行者動線を新設し、市民が通り抜けられるようにする。（行政）【④】

議題2 「みどり」を活かしたにぎわいづくり

※下記枠内のうち【 】内の番号とページ
下部にある地図上の番号が対応しています

問題・困りごと

取組内容とその役割分担

「目に見えるみどり」が少ない。

- ・みどりの補助金を充実する。（行政）
- ・「みどりのゴミ集積所」をつくる。（行政）
- ・鉄道沿線に「みどりのカーテン」をつくる。
（民間）【⑤】
- ・道路に「ホンダ通り」や「東洋大通り」などと愛称をつけ、植樹やにぎわいづくりに参画いただく。（民間）

朝霞市の名産である「ニンジン」のPRが不足している。

- ・電柱をニンジン色に着色するなど、道路でもニンジンをアピールする。（行政・民間）
- ・ニンジンパフェなど常設メニューをつくり、ニンジンをPRする。（民間）
- ・地元のお店や町内会などで、様々な品種のニンジン育ててみる。（市民）

議題3 浄水場との共存

※下記枠内のうち【 】内の番号とページ
下部にある地図上の番号が対応しています

問題・困りごと

取組内容とその役割分担

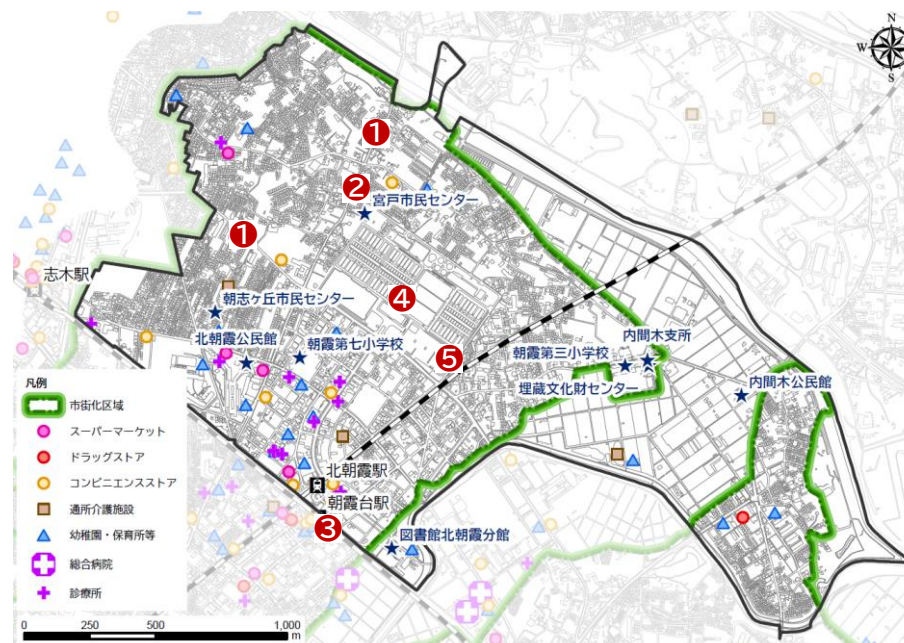
浄水場に地域が分断されている。

- ・浄水場の敷地内に歩行者動線を新設し、市民が通り抜けられるようにする。
（行政）【④】 ※再掲

北部地域のまちに合った浄水場でない。

- ・定期的にイベントを開催し、自衛隊基地のような、市民に対してオープンな施設にする。（行政）
- ・国や議員の方々も巻き込み、地域住民の意見を東京都に届きやすくする。
（行政・議員・市民）

ワークで使用した地図のイメージ



グループワークの様子



北部地域【第4回】

「取組の提案」では、「市民や民間企業の力を使いこなす」や「名産であるニンジンを活かしたにぎわいづくり」、「地域に開かれた浄水場にする」という意見が出され、特に「ニンジンを活かしたにぎわいづくり」については活発な意見交換がなされました。

「方針図の提案」では、民間企業等との協働によるにぎわいづくりエンジンのPR、宮戸橋通り等における交通安全対策に関する提案が多く挙げられました。

取組の提案

重点課題1：快適で安全・安心な道路

問題・困りごと	取組方針（目的）	具体的な取組	私たちからの提案
自動車交通量が多く、危険を感じる。	歩行者の安全性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・車両の速度規制を行う。 ・車両を一方通行にする。 ・交通事故が発生しにくいまちづくりを進める。 	<p>市民や民間企業の力を 使いこなす！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本田技研工業(株)と市民で地域を歩いて、事故の可能性がある場所を見つけよう！ ・本田技研工業(株)と市民で交通ハザードマップをつくろう！
歩道が狭く、歩きづらい。	歩行者の安全性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道を新設する。 	
鉄道や浄水場、河川によって地域が分断されている。	行き来がしやすくなるよう新たな動線を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝霞台駅を平面で通り抜けられるようにする。 ・浄水場内を市民が通り抜けられるようにする。 	

重点課題2：公共交通の利便性の向上

問題・困りごと	取組方針（目的）	具体的な取組	私たちからの提案
「目に見えるみどり」が少ない。	「目に見えるみどり」を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道沿線に「みどりのカーテン」をつくる。 ・道路に「ホンダ通り」などと愛称をつけ、植樹などに参画いただく。 	<p>ニンジンを活かしたにぎわいづくりを！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニンジンおどりやニンジンイベントを企画して人の輪を広げよう！ ・ニンジンの生産量を増やすなど、目に見えるニンジンを増やそう！
朝霞市の名産である「ニンジン」のPRが不足している。	「ニンジン」を活かしたにぎわいづくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・道路空間を活かしてニンジンをアピールする。 ・ニンジン料理の常設メニューを考え、PRする。 ・地元のお店や町内会などでニンジンを育てる。 	

重点課題3：浄水場との共存

問題・困りごと	取組方針（目的）	具体的な取組	私たちからの提案
浄水場に地域が分断されている。	地域住民も使いやすい浄水場にする。	<ul style="list-style-type: none">・ 浄水場内を市民が通り抜けられるようにする。	<p>地域に開かれた浄水場にしよう！</p>
北部地域のまちに合った浄水場でない。	まちにマッチした浄水場にする。	<ul style="list-style-type: none">・ 定期的にイベントを開催し、市民に対してオープンな施設にする。・ 国や議員の方々も巻き込み、住民の意見を東京都に届きやすくする。	<ul style="list-style-type: none">・ 浄水場の見学会を開催するなど、市民が積極的に関われる浄水場にしよう！

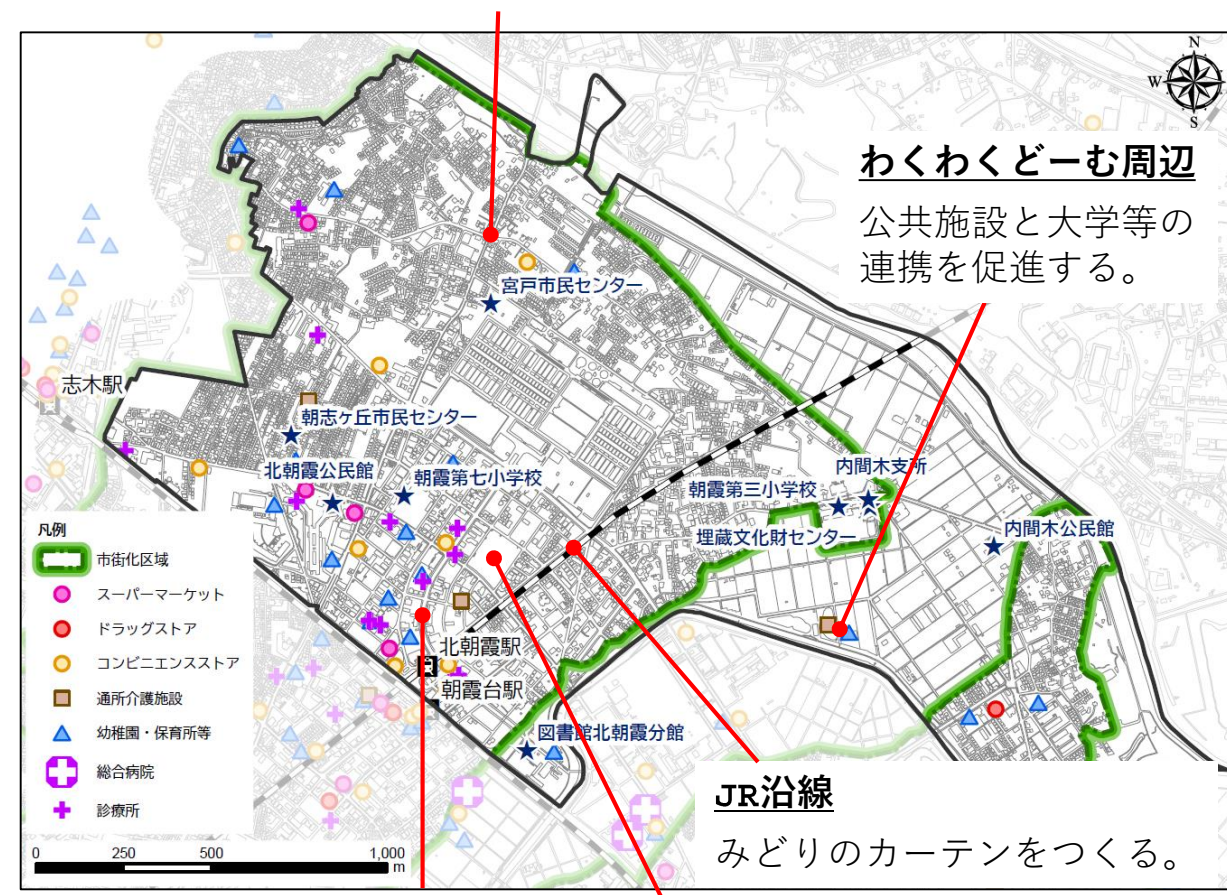
グループワークと発表の様子



方針図の提案

宮戸橋通りなど

道路の拡幅や歩車分離のほか、「ゾーン15」の指定による交通安全策を講じる。



駅前通り

エンジン

民間の力を活用し休憩所、
カフェ、公園などを整備する。

上記のほか、特定の場所ではなく地域全域に関わる提案として「自転車道の整備」や「市民が水を飲みながら少し休めるポケットパークの整備」、「道路のデザイン（舗装など）による誘導や景観への配慮」の提案がありました。

また、現行の方針図に対しては「各施策のつながりがわからない」という意見が出され、施策間のつながりを生むキーワードとして「ニンジン」が挙げられました。

東部地域【第1回】

東部地域の「良いところ」としては、地域内の公園や住環境の良さが挙げられ、この地域に住み続けたいかに対しては全員が「そう思う」と回答しました。一方、「改善したいところ(課題)」では、バスやシェアサイクルなどの移動手段の充実や災害時における安全対策の懸念についての議論がありました。

全体

設問
地域のなかで、あなたが一番好きな場所はどこですか？その理由も合わせて教えてください。



意見の要点
水久保公園や向山公園、黒目川沿いなど、緑があり季節の変化を感じるられる場所として挙げられました。また、祭りやイルミネーションなどで使われる駅前も好きな場所として挙げられました。

全体

設問
この地域の特徴を表すキーワードを5つ挙げてください。



意見の要点
静かな住宅地、畑や斜面林などの緑が多い、道路が狭い、交通の便が良い、大型商業施設があるは複数挙げられました。

暮らし

設問
あなたはこの地域に住み続けようと思いますか？ そう思う（思わない）理由は何ですか？
（この地域に住んでいない方は、この地域に住んでみたいと思いますか？）



意見の要点
全員が住み続けたいとの意見でした。主な理由として、畑や緑が残されていて住環境が良いこと、交通の利便性が良いことなどが挙げられました。一方で、道路が狭い、商業が弱い、居場所が少ないなどの課題も挙げられました。

賑わい

設問
駅周辺以外で、産業活動や経済活動、市民交流の観点から大事な場所はどこですか？



意見の要点
市民交流の観点から公民館や図書館などの多世代が集まれる場所、産業・経済活動の観点からはIC周辺の商業施設や物流倉庫が挙げられました。

移動

設問
地域のなかで、普段移動するうえでの問題点は何ですか？



意見の要点
道が狭く歩道がないこと、バス網はあるものの本数が少ないこと、シェアサイクルのポートが限定的であることなどが挙げられました。

持続可能

設問
この地域らしさを感じる自然や緑・水の資源はどこにありますか？



意見の要点
根岸台自然公園、水久保公園、城山公園、黒目川が複数挙げられました。

安心・安全

設問
地区別カルテに示すような水害が発生した場合、あなたの生活にどのような影響がありますか？（家だけでなく通勤や子供の通学なども含めて考えてみてください）

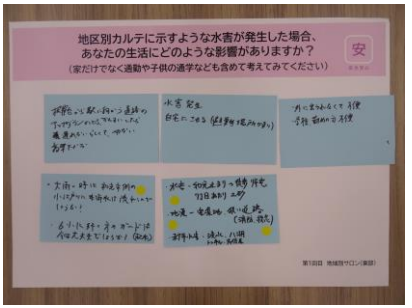
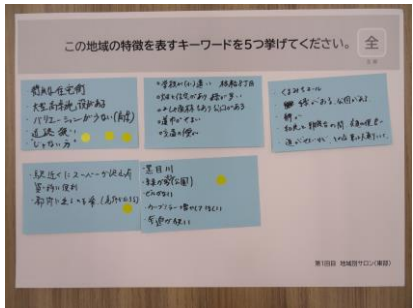


意見の要点
洪水浸水の範囲は限定的だが、大雨の際は鉄道を横断するガード下への浸水や、斜面地での土砂流出などがこれまで発生しており移動に支障をきたしていることが挙げられました。水害以外にも、道路が狭く、住宅が密集しているため地震による避難路の閉塞や延焼のリスクがあることが挙げられました。

【ワークショップの様子】



【設問ボードの記入例】



ワークショップで出された意見

- ・向山公園→スカイツリーが見える
- ・水久保公園の坂道→両側に緑があり季節の変わりがわかる
- ・朝霞駅東口→祭りやイルミネーションなどで使われているから など

・黒目川の土手の桜→桜を楽しめる

ワークショップで出された意見

- ・静かな住宅街、大型商業施設がある、バリエーションが少ない（商業）、道路狭い
- ・駅近くにスーパーが沢山有、買い物に便利、都内に出るのも楽（急行が止まる）
- ・黒目川、緑が多い（公園）、ビルがない、カーブミラー増やしてほしい、歩道が狭い など

ワークショップで出された意見

- ・そう思う →緑も多いし、一寸歩くと畑があり、のんびりと過ごせるまち
→環境が良いから（日当たり）
→まちが静か、治安が良い、公園がある、交通手段（バス・鉄道・自家用車）が選べる
- ・そう思わない→商業が弱い
→居場所（パブリックスペース）がない など

ワークショップで出された意見

- ・商業施設や物流系（雇用と娯楽の観点から）、個人店など娯楽が欲しい
- ・高齢者がいつでも出入りできる場所や、ブラっと行っておしゃべりしたりできる所ほしい
- ・既存のもの:カインズ（経済の理由） / 願望：根岸周辺、病院、コンビニ、飲食店 など

ワークショップで出された意見

- ・わくわく号の本数が増えればいいと思う
- ・道が狭いので危険、歩道がない、家の植栽が道路にはみでてる、カーブミラーが絶妙に足りない、住宅の外構の壁などで見通しが悪い、車がはみでてる など

ワークショップで出された意見

- 根岸台自然公園の緑や坂（台地）、黒目川、城山公園、水久保公園、根岸台自然公園、城山公園、わき水がある など

ワークショップで出された意見

- ・水害の影響で電車が止まり、徒歩帰宅になる
- ・7丁目あたり土砂・地震、密集地、狭い道路（消防、救急）、都市水害、八潮、トンネル、高低差
- ・外に出られなくなるため不便になる
- ・根岸台から駅に向かう道路のアップダウンしている場所で冠水すると通行できないらしい
- ・避難場所が遠い など

東部地域【第2回】

まちづくりの5か条(将来への想い)

暮らし

居住環境を高めつつ
地域力も高める

議論の要点
自然や田畑が残る静かな居住環境を維持しつつ、生活利便性をより高めていくことが必要であること。加えて、地域のつながりも高めていくことが必要との意見が出されました。

賑わい

メリハリをつけて
にぎわいを創出

議論の要点
駅周辺やIC・バイパス周辺では商業や産業の活性化を計画的に進めつつ、既存の居住環境は維持していくような、メリハリのあるにぎわい創出を図っていくことが必要との意見が出されました。

快適な移動

誰もが移動しやすい
環境の創出

議論の要点
道路が狭く、見通しが悪い道路が存在するなど、交通環境の確保が求められること。また、今後高齢化が進んでいく中でデマンドバスの導入など誰もが移動しやすい環境を整えていくことが必要との意見が出されました。

持続可能

農地や斜面林等の地域資源の
維持・活用

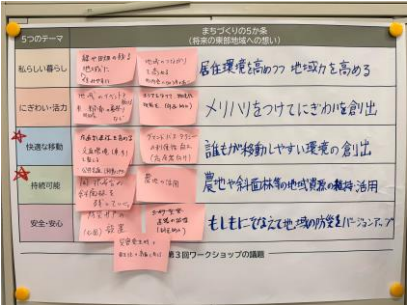
議論の要点
農地や斜面林などの地域資源を適切に残していくためには、資源の活用を図るとともに、管理等の仕組みを整えていくことが必要との意見が出されました。

安心・安全

もしもに備えて
地域の防災をバージョンアップ

議論の要点
災害発生時だけでなく、その後の対応も含めた準備を整えておくことが必要との意見が出されました。

【模造紙の記入例】

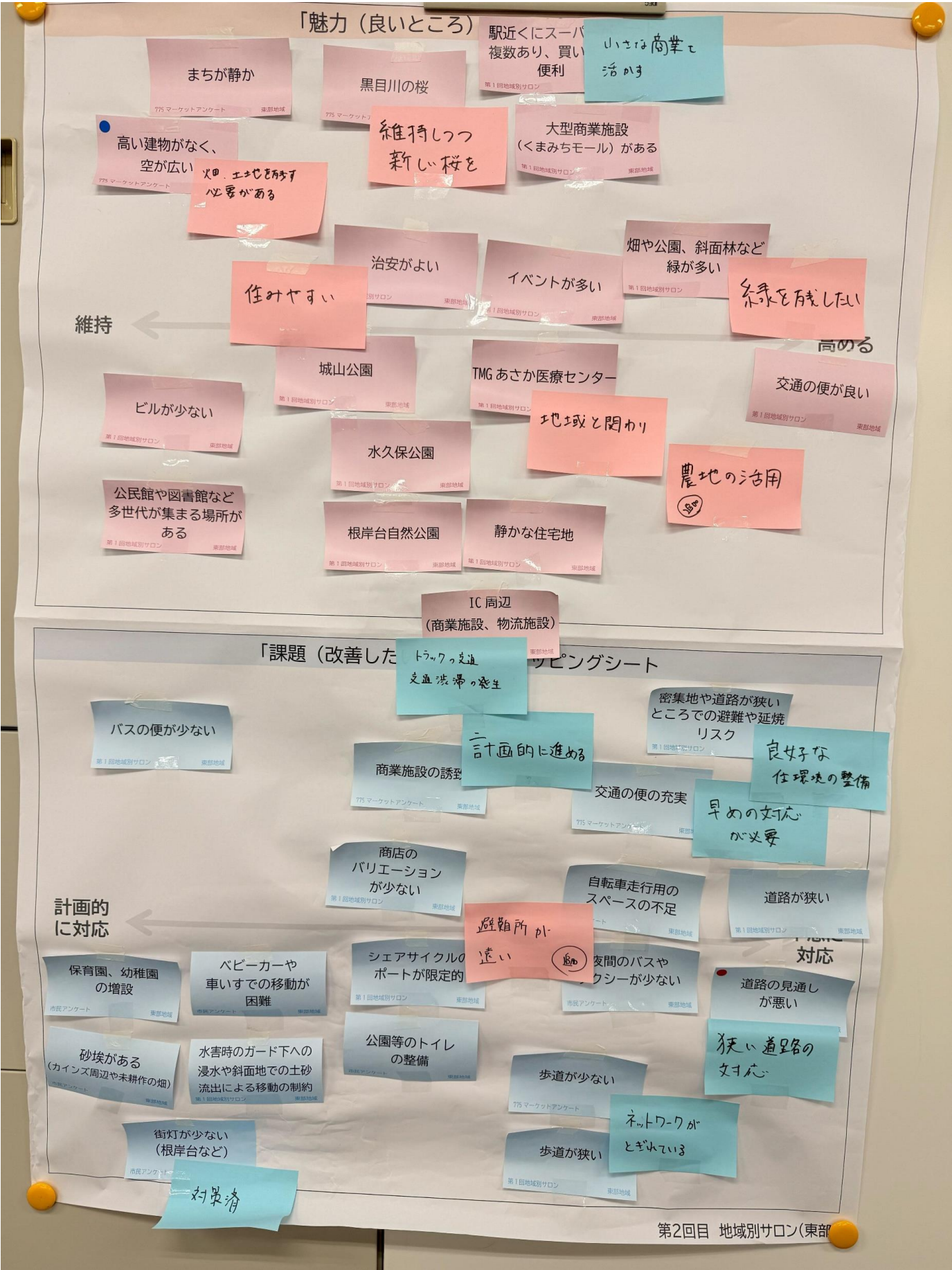


次回の議題

「誰もが移動しやすい環境の創出」と
「農地や斜面林等の地域資源の維持・活用」に向けて

東部地域では、地域の魅力としてより高めるもの、早急に改善が必要なことについて意見交換を行いました。出された意見を整理すると、「快適な移動」や「持続可能」に関係するキーワードが多く出されたことから、次回（第3回）のグループワークでは、まちづくり5か条のうち「誰もが移動しやすい環境の創出」と「農地や斜面林等の地域資源の維持・管理」を議題として、その将来への想いの実現に向けた取組について議論することになりました。

【マッピングシート「魅力」と「課題」】



東部地域【第3回】

東部地域では、2つの議題について話し合いました。議題1「誰もが移動しやすい環境の創出に向けて」では、主に道路の安全性向上や公共交通の充実に向けた対策について話し合いました。議題2「農地や斜面林等の地域資源の維持・活用」では、地域特有の資源である農地や斜面林等に対する意識を変えながら維持・活用していくかについて対策を話し合いました。

議題1 誰もが移動しやすい環境の創出に向けて

※下記枠内のうち【 】内の番号とページ
下部にある地図上の番号が対応しています

問題・困りごと

- ・道路が狭く、カーブミラー等の設置など交通安全対策が不十分（①）
- ・駅周辺で安心して歩ける空間が確保されていない（②）



取組内容とその役割分担

- ・駅周辺においては、一方通行化や歩行者専用化など時間や曜日での交通規制を活用しながら、歩行者が歩きやすく空間を確保する（行政）
- ・住宅地においても、交通安全対策や交通規制を組み合わせ、安全に通行できる環境を整える（特に通学路）（行政）
- ・まちづくりに対する意識の醸成（住民・民間）

- ・連続した歩道のネットワークが確保できていない（③）
- ・自転車の走行空間が確保できていない（④）
- ・自転車のルールが守られていない



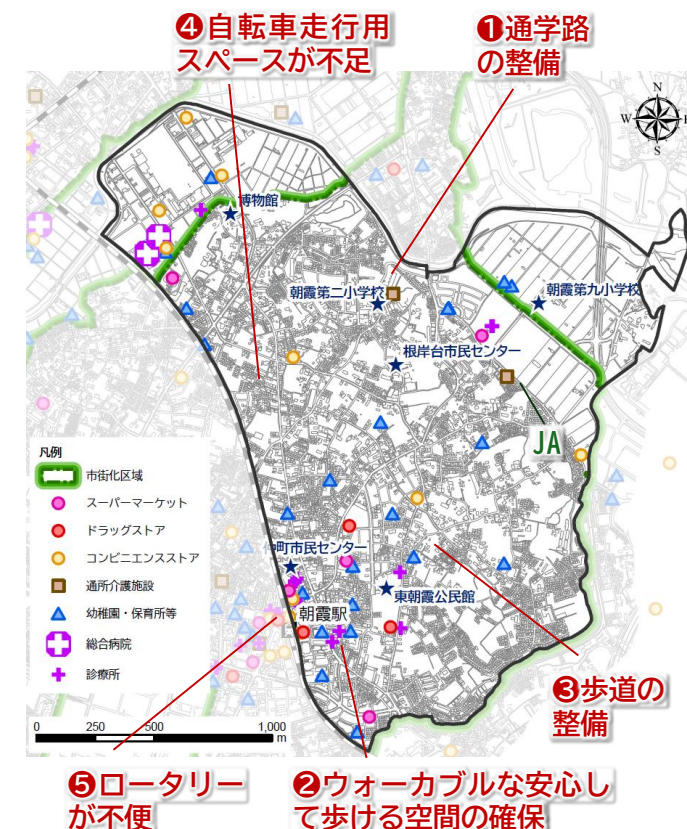
- ・片側だけでも歩道を確保するなど、歩道のネットワークを強化する（行政）
- ・自転車のルールの周知・徹底（住民・行政）

- ・交通手段（公共交通やシェアモビリティなど）の選択肢がエリアによって濃淡がある
- ・デマンドバスの利便性向上
- ・駅のロータリーで一般車とバス、タクシーが錯綜（⑤）



- ・新しいモビリティの有効活用とポート等設置への協力（住民・民間・行政）
- ・モビリティ・ハブ（公共交通やその他モビリティとの接続点）の充実と路線バスの再編（民間・行政）
- ・駅のロータリーでの公共交通と一般車の棲み分け（行政）

ワークで使用した地図のイメージ



議題2 農地や斜面林等の地域資源の維持・活用

問題・困りごと

- ・担い手がない



取組内容とその役割分担

- ・市民農園にするなど農業に関わる仕組みづくり（民間・行政）
- ・農業の高付加価値化、法人化、販売ルートの開拓（民間）
- ・収穫体験など“こと”をお金にする仕組みづくり（民間・行政）

- ・管理にお金がかかる
- ・管理不足による安全性の不安



- ・民間活力の活用（民間）
- ・住民等が管理・活用に関わる仕組みづくり（行政・住民）
- ・地域の資源であることの認識の共有、意識の醸成（住民）

グループワークの様子



東部地域【第4回】

「取組の提案」では、「移動環境」と「地域資源」に関する提案がありました。「移動環境」では、ハード整備だけでなく、意識の変化やルールの周知などソフト面の提案も挙げられました。また「地域資源」では、“こと”をお金にする仕組みや子どもたちが関われる機会の創出が地域資源の維持・活用に結びつくのではないかと提案がありました。

「方針図の提案」では、「駅前拠点」や「移動」「土地利用」の観点からの提案がありました。

取組の提案

重点課題1：誰もが移動しやすい環境の創出に向けて

問題・困りごと	取組方針（目的）	具体的な取組	私たちからの提案
・道路が狭く、カーブミラー等の設置など交通安全対策が不十分	・安全に通行できる環境を整える（特に通学路）	・物理的なデバイスと交通規制を組み合わせた交通安全対策の実施	①意識を変える！ ・地域、自分たちでできることは地域でやってみる ・消費、交通手段、暮らし方の選択を考え直す ・移動の目的をつくる ・道路に対する意識を変える（通るからつかうへ）
・駅周辺で安心して歩ける空間が確保されていない	・歩行者が歩きやすい空間を確保する	・交通規制による歩行者空間の確保	②ルールの周知・徹底 ・子どもと保護者への交通ルールの教育 ・自転車の乗り方の周知
・連続した歩道のネットワークが確保できていない ・自転車の走行空間が確保できていない ・自転車のルールが守られていない	・歩道・自転車のネットワークが強化され、安心して移動できる環境を整える	・片側だけでも歩道を確保 ・自転車走行環境の整備 ・自転車のルールの周知、徹底を図る	③通学路の安全性強化 ・交通規制を活用した面的な交通安全対策の実施
・交通手段の選択肢がエリアによって濃淡がある	・誰もが移動しやすい環境を創出する	・新たなモビリティの積極的な活用 ・モビリティの結節機能の充実 ・ロータリーでの公共交通と一般車の棲み分け	④ネットワークの強化 ・片側だけでも歩道確保 ・自転車のネットワークの形成

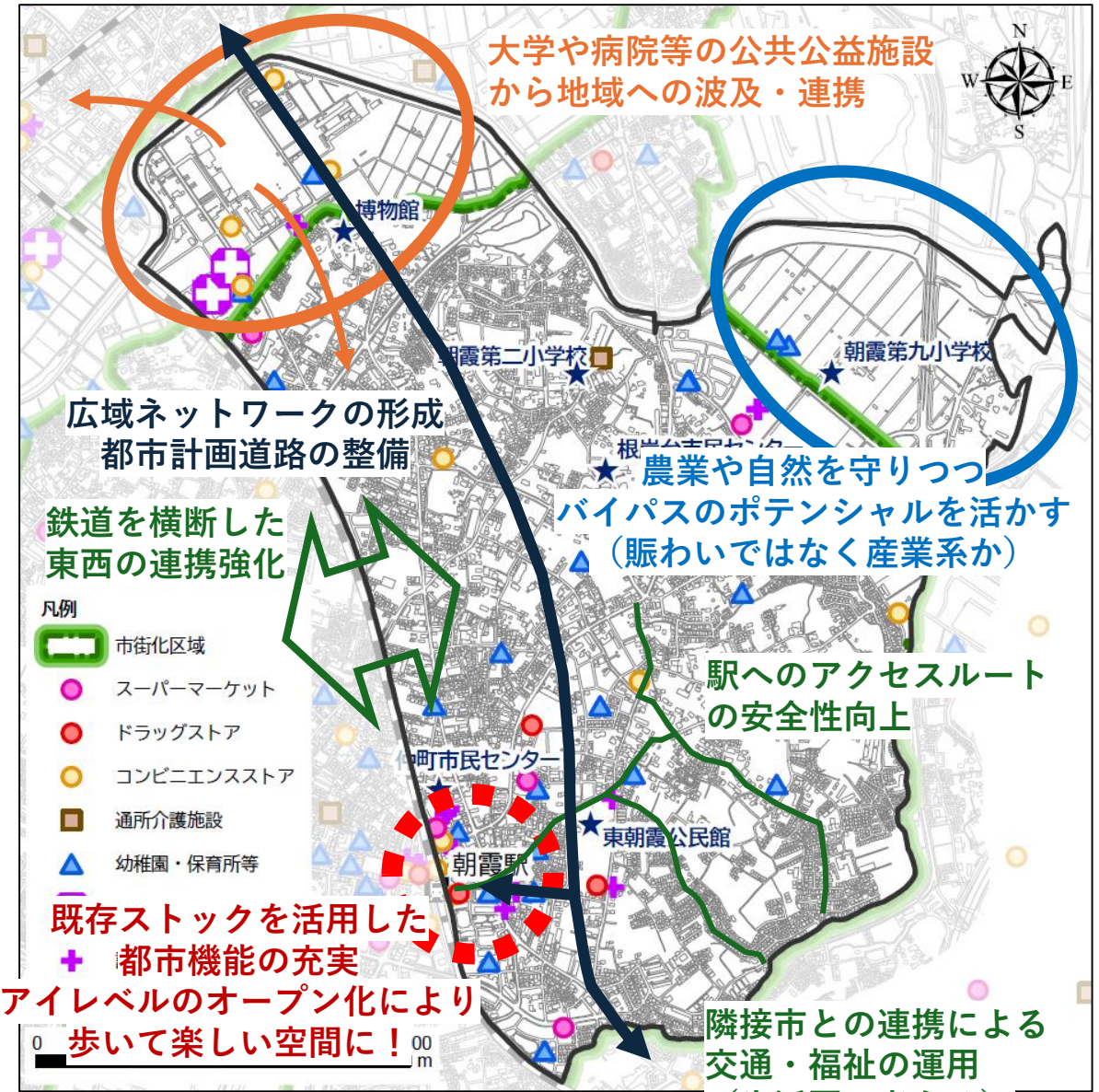
重点課題2：農地や斜面林等の地域資源の維持・活用

問題・困りごと	取組方針（目的）	具体的な取組	私たちからの提案
・担い手がない ・管理にお金がかかる ・管理不足による安全性の不安	・農業の高付加価値化 ・農業等に関われる仕組みづくり ・地域の資源であることの認識の共有、地域で資源を守り育てる意識醸成	・市民農園にする ・農業の高付加価値化や法人化、販売ルートの開拓に向けた支援 ・収穫体験など“こと”をお金にする ・住民等に関われる仕組みをつくる	①“こと”をお金にする仕組みづくり ・収穫体験など農業等に関われる仕組みづくり ②子どもの時から関われる仕組みづくり ・学校教育に地域資源の維持・活用の取組を組み込む

グループワークと発表の様子



方針図の提案



方針図について、「駅前拠点」や「移動」、「土地利用」の大きく3つの観点からの提案がありました。

「駅前拠点」では、既存のストックを活用しながら都市機能の充実やアイレベルのオープン化により歩いて楽しい空間にする提案。「移動」では、幹線道路の整備や駅へのアクセス道路の安全性向上、鉄道を横断した東西の連携強化を図る提案。「土地利用」では、ポテンシャルを活かしつつ、周辺の住環境や自然環境に配慮したメリハリのある土地利用についての意見、提案がありました。

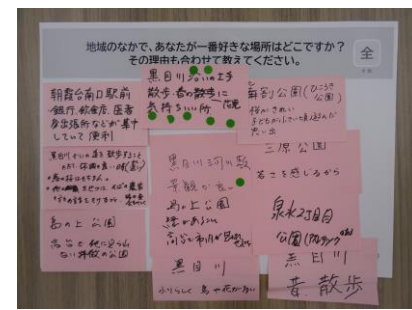
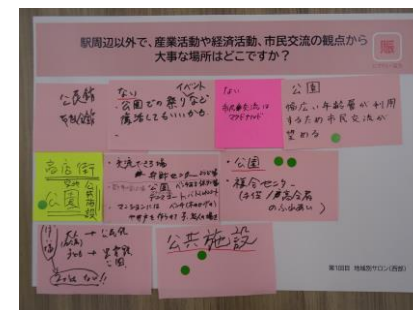
西部地域【第1回】

西部地域の「良いところ」としては、黒目川などの市を代表する場所のほか、島の上公園などの地域固有の資源が挙げられました。住み続けたい理由としても、高台で風景がよいことが挙げられていました。一方、「改善したいところ(課題)」では、道路の幅員の狭さや災害に関する懸念点が挙げられました。

【ワークショップの様子】



【設問ボードの記入例】



全体

設問

地域のなかで、あなたが一番好きな場所はどこですか？その理由も合わせて教えてください。



意見の要点

黒目川沿いで、季節を感じる散歩にいい場所として多く挙げられました。また、島の上公園をはじめとする地域内の公園も、景色がよいことや子供の遊び場といった理由で多く挙げられました。

全体

設問

この地域の特徴を表すキーワードを5つ挙げてください。



意見の要点

密集、歩道がない、道が狭い、自然（緑）は複数挙げられました。

暮らし

設問

あなたはこの地域に住み続けようと思えますか？ そう思う（思わない）理由は何ですか？（この地域に住んでいない方は、この地域に住んでみたいと思えますか？）



意見の要点

住み続けたいと思う人が大半であり、理由としては黒目川、農地などがあり、高齢者にとっては静かな住宅地といえるほか、交通の便がよいことが挙げられました。

賑わい

設問

駅周辺以外で、産業活動や経済活動、市民交流の観点から大事な場所はどこですか？



意見の要点

現時点では特にないが、既存の公園にそのような場所として使えるとよいという意見が複数挙げられました。ほかにも公民館や児童館などの公共施設を追加してほしいといった要望もありました。

移動
快適な

設問

地域のなかで、普段移動するうえでの問題点は何ですか？



意見の要点

歩道が狭いこと、バスの便が少なく利用に不便なことは挙げられました。

持続可能

設問

この地域らしさを感じる自然や緑・水の資源はどこにありますか？



意見の要点

黒目川は最も多く挙げられており、他には公園、畑、第5小学校も挙げられました。

安心・安全

設問

普段の生活のなかで、まちの「安全・安心」に関して不安に思っていることはなんですか？



意見の要点

災害について、溝沼地区においては水害の恐れがあり、地区内に密集市街地が多く地震・火災に脆弱であることが挙げられました。交通について、歩道が少ないことが挙げられました。

ワークショップで出された意見

- ・目黒川沿いの土手→散歩、春の花見に気持ちいい所
- ・きた割公園（飛行機公園）→桜がきれい、子供が小さい頃遊んだ思い出
- ・朝霞台南口駅前→銀行、飲食店、医者、出張所などが集中していて便利
- ・島の上公園や高台で他に見られない特徴の公園だから など

ワークショップで出された意見

- ・密集、マンション、歩道がない、道が行き止まり、公園がある（小規模の）、緑、乗降客、畑
- ・子供、ホンダ、交通安全
- ・自然、公園、交通、食 ・建物が密集しており空が狭く感じる、道路が狭い、緑が少ない など

ワークショップで出された意見

- ・そう思う →利便性と環境、緑地が両立している
→平たんなので移動がラク、スーパーも徒歩圏にある
→知人が多い、助けられている、高台で風景よい、よく声かけてくれる
- ・そう思わない→職場が都内にあるから、もう少し近くに住みたい
→子供のための施設が充実した場所がいい など

ワークショップで出された意見

- ・公園、幅広い年齢層が利用するため市民交流が望める公民館、市民会館
- ・商店街、公園、公共施設、空地
- ・公園、複合センター（子供/高齢者のふれあい）
- ・公共施設
- ・公民館、市民会館 など

ワークショップで出された意見

- ・公共交通（バス運行時間本数）、歩道が狭い
- ・公共交通の問題、高齢になると病院をはじめ、移動手段がほとんどタクシー
- ・バス路線少、道路狭い、公共交通ない など

ワークショップで出された意見

目黒川、目黒川公園、畑、目黒川通りの並木道、第5小学校、公園（北割、弁財、島の上）畑（泉水）野火止め用水あと など

ワークショップで出された意見

- ・浸水、歩道の確保、小学生通学路の安全確保
- ・市道7号線、二本松通りの歩道の狭さ、子供載せ自転車のマナー
- ・地震、水害に弱い密集市街のマンションの老朽化
- ・溝沼地区の水害、狭い道での交通事故
- ・交通事故の危険、子供が放課後に遊ぶ場所が少なく社会性が欠けてしまう、駅の整備 など

西部地域【第2回】

まちづくりの5か条(将来への想い)

暮らし

コミュニティスペース・複合的

議論の要点

公民館、児童館などコミュニティの場が提供されるほか、子どもが遊べる自由広場も整備すること。また、図書館などの施設を整備する際に、富士見市のように、フリースペースも用意してほしいとの意見がありました。

快適な移動

バスだけでない移動手段の多様化
〈デマンドバス(タクシー)、移動販売も兼ねて〉

議論の要点

通勤・通学者と高齢者の公共交通に対する需要が異なるため、年代別の需要に対応するように公共交通を整備すること。加えて、定時運行しないバスなどの活用により、全体的な利便性を向上するとの意見もありました。

安心・安全

交通安全（歩道、道幅）と
浸水リスクと密集市街地リスク

議論の要点

道路が狭く、歩道がないなど、交通安全の確保が求められること。また、地域により浸水リスクがあるため、安全対策を図ることも求められました。

賑わい

地元農産品の即売場、レストラン等
のマルシェ

議論の要点

空き店舗の活用を推奨し、個人商店で会話しながら買い物ができる商店街をつくること。また、地元の農家が作った農産物を味わえる・買える機会の創出が必要との意見もありました。

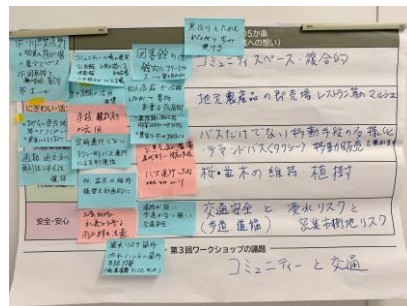
持続可能

桜並木の維持・植樹

議論の要点

昔植えた桜の木が「高齢」になり、倒れる危険性があるため、桜並木の維持を図り、計画的に植替えを図ること。

【模造紙の記入例】

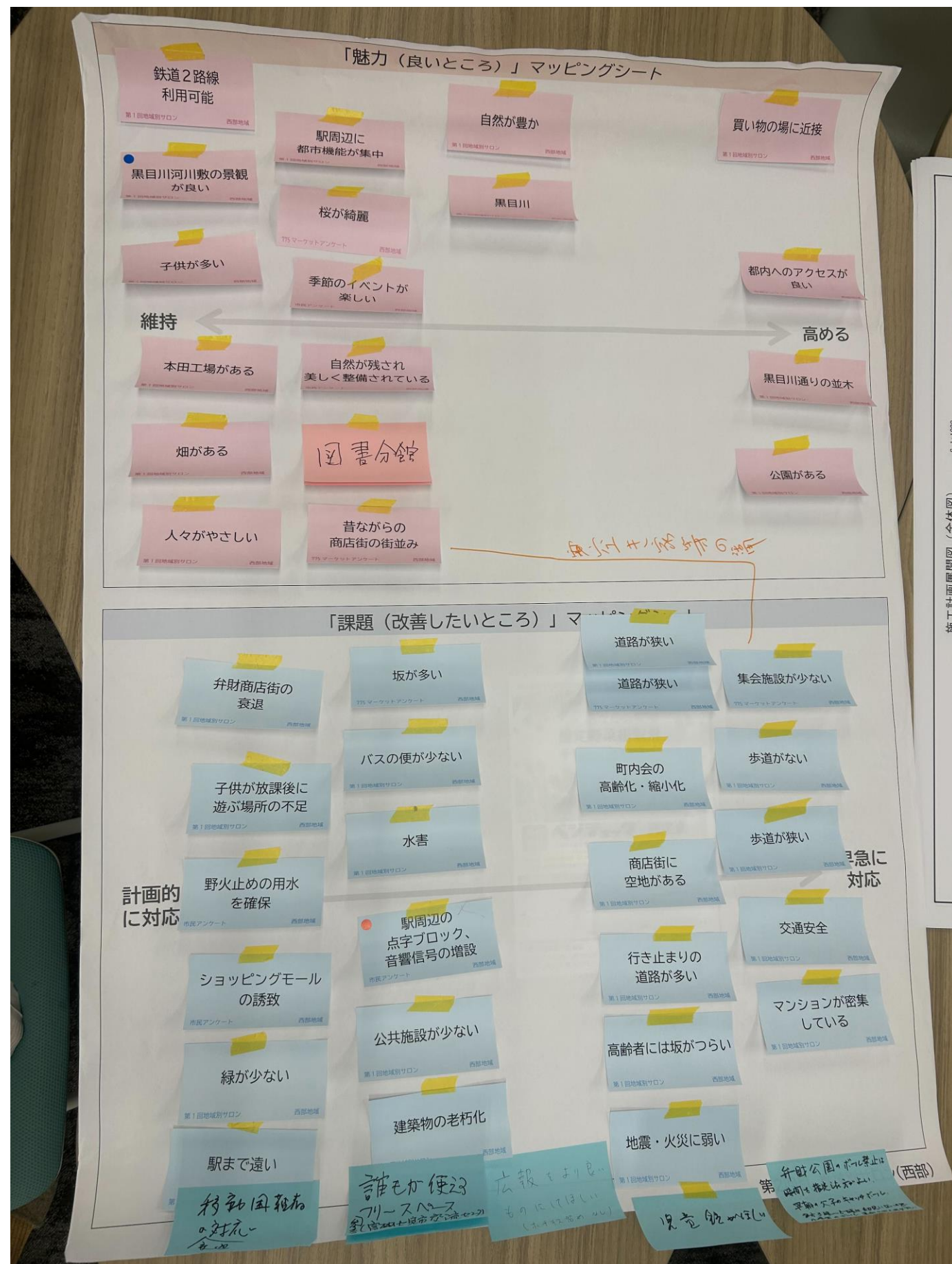


次回の議題

「コミュニティ」と「交通」

西部地域では、よりよい地域になるために、地域の魅力と課題について議論をしました。出された意見のうち、地域でコミュニケーションをとるための施設が不足していること、公共交通が不便なこと、道路が狭く歩道がないことによる交通安全に対する懸念が最も緊急な議題として挙げられていました。その2つの議題について、第3回で深く議論することにしました。

【マッピングシート「魅力」と「課題」】



西部地域【第3回】

西部地域では、2つの議題について話し合いました。議題1「コミュニティ」では、住民が集まって交流するスペースが不足しており、複合的な集会用施設の充実が必要との課題が挙げられ、住民や行政による対策について話し合いました。議題2「交通」では、公共交通利便性の向上のみならず、道路老朽化により交通安全への懸念も含め、考えられる対策について話し合いました。

議題1 コミュニティ

※下記枠内で色分けして記載された項目は、下部にある地図上に同様の色で示された該当箇所と対応しています。

問題・困りごと

・緑が少なく、子どもが伸び伸び遊べる公園が足りない。

取組内容とその役割分担

- ・黒目川沿いを活用し、レクリエーションの新しい企画を図り、南部地域の漁業組合と連携し、釣り具を貸出し、釣りができるような仕組みをつくる。（民間事業者）
- ・黒目川沿いに普通のベンチだけでなく、ボックスシートのようなベンチを設置してもらう。〈広告付きのベンチ寄付など〉（民間事業者、行政）

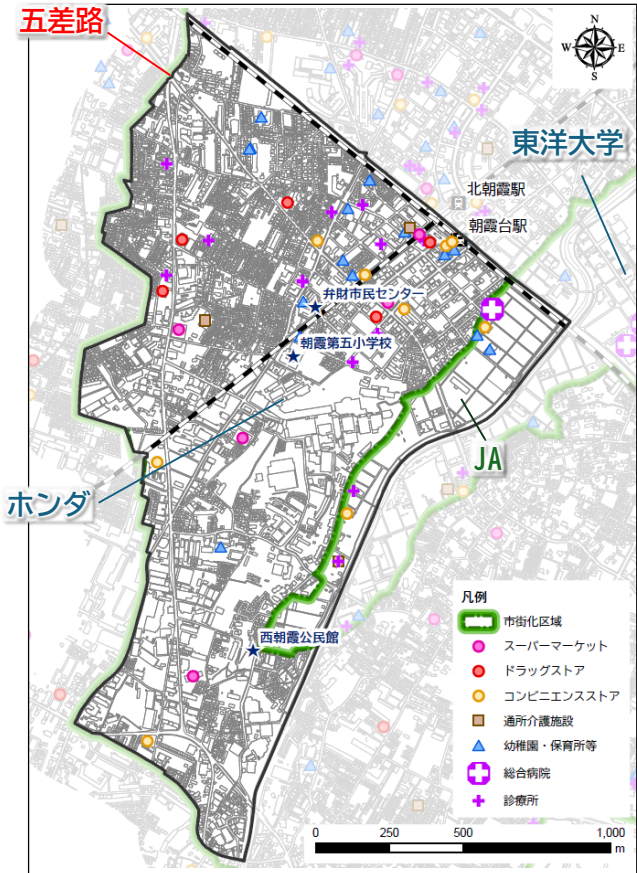
・集まってサークルができるような施設が足りない。

- ・学校などの既存施設は時間帯によって住民の集会施設として使えるような仕組みを検討する。（行政・住民連携）
- ・市が個人宅の空室を集い場としての利用に対する補助を行う。（行政・住民連携）
- ・大学生などを対象に、下宿を提供し、大家となっている高齢者との定期的な交流を図る。（住民）

・近所のスーパーでは地元の野菜が売っていない。

- ・JAの駐車場を活用し、地元の野菜を販売するマルシェを主催する。（行政・農業委員会・JR連携）
- ・近隣都市にそれぞれの取組を見学し、朝霞市での運用を検討する。（行政）

ワークで使用した地図のイメージ



議題2 交通

問題・困りごと

・全体的に道路が老朽化しており、車道、歩道においては穴ぼこ、フラックなどの劣化が多くみられる。

取組内容とその役割分担

- ・危ないところから、道路を整備する。住民が適宜危ない箇所の情報を共有する。（行政、住民）
- ・五差路周辺におけるスクランブル化。（行政）

・歩道が細切れになっている。

- ・歩きやすい側溝をつくる。（行政）
- ・ハンプの設置やグリーンベルトの活用により、交通安全を図る。（行政）
- ・道路の一方通行化により歩行空間を創出する。（行政）

・交通利便性が悪い。

- ・バス利用者の実態を明らかにし、公共交通サービスのターゲット層をしっかりと分析した上で、コミュニティバスの路線見直しをする。（行政・民間事業者連携）
- ・バス運転手の育成。（民間事業者）
- ・ホンダや大学等との連携により、新しい交通手段の導入を検討する。（セグウェイ、シェアサイクルなど）（民間事業者）

グループワークの様子



※上記枠内で色分けして記載された項目は、地図中に同様の色で示された該当箇所と対応しています。

西部地域【第4回】

「取組の提案」では、「場所と人のつながり」は「重点課題1：コミュニティ」の軸となり、主に遊休農地等の利活用により地域内における交流の場の創出を図りつつ、地域で農業を支えるような仕組みについて提案がありました。「重点課題2：交通」については、民間の力を活用し新しい交通手段について提案がありました。

「方針図の提案」では、地域内に既存ストックの活用に関する意見が多く挙げられました。

取組の提案

重点課題1：コミュニティ

問題・困りごと	取組方針（目的）	具体的な取組	私たちからの提案
・緑が少なく、子どもが伸び伸び遊べる公園が足りない	・公園や黒目川沿いなどの既存資源を活用し、楽しめるような企画を図る	・南部地位の漁業組合と連携し、釣り具などを貸出し、釣りができるような仕組みをつくる ・民間企業等と連携し、ベンチを設置する。また、通常のベンチだけでなく、ボックスシートのようなベンチの設置も検討する	場所と人のつながりを！ 遊休農地などを有効に活用できるように、土地所有者と直接交渉を交わすことによって、地域内の公園・広場を増やす。 また、黒目川沿いの自然環境を守るとともに、地域内において農業の後継者を育成し、地域の人たちが農業を支えるような仕組みを作る。
・住民が集まってサークルができるような施設が足りない	・既存の施設を集会所としての利用を考える ・民間が所有している資産を市民集会所の場としての利用を考える	・放課後に学校を集会所として使えるような仕組みを検討する ・民間の空き室を集い場として利用する仕組みを考える ・一人暮らしの高齢者の家を大学生を対象に下宿として利用することで、高齢者との定期的な交流を図る	
・近所のスーパーでは地元産の野菜を売っていない	・地元産農産物を販売する場づくりを図る	・JAの駐車場を、地元産野菜を販売するマルシェとして活用する	

重点課題2：交通

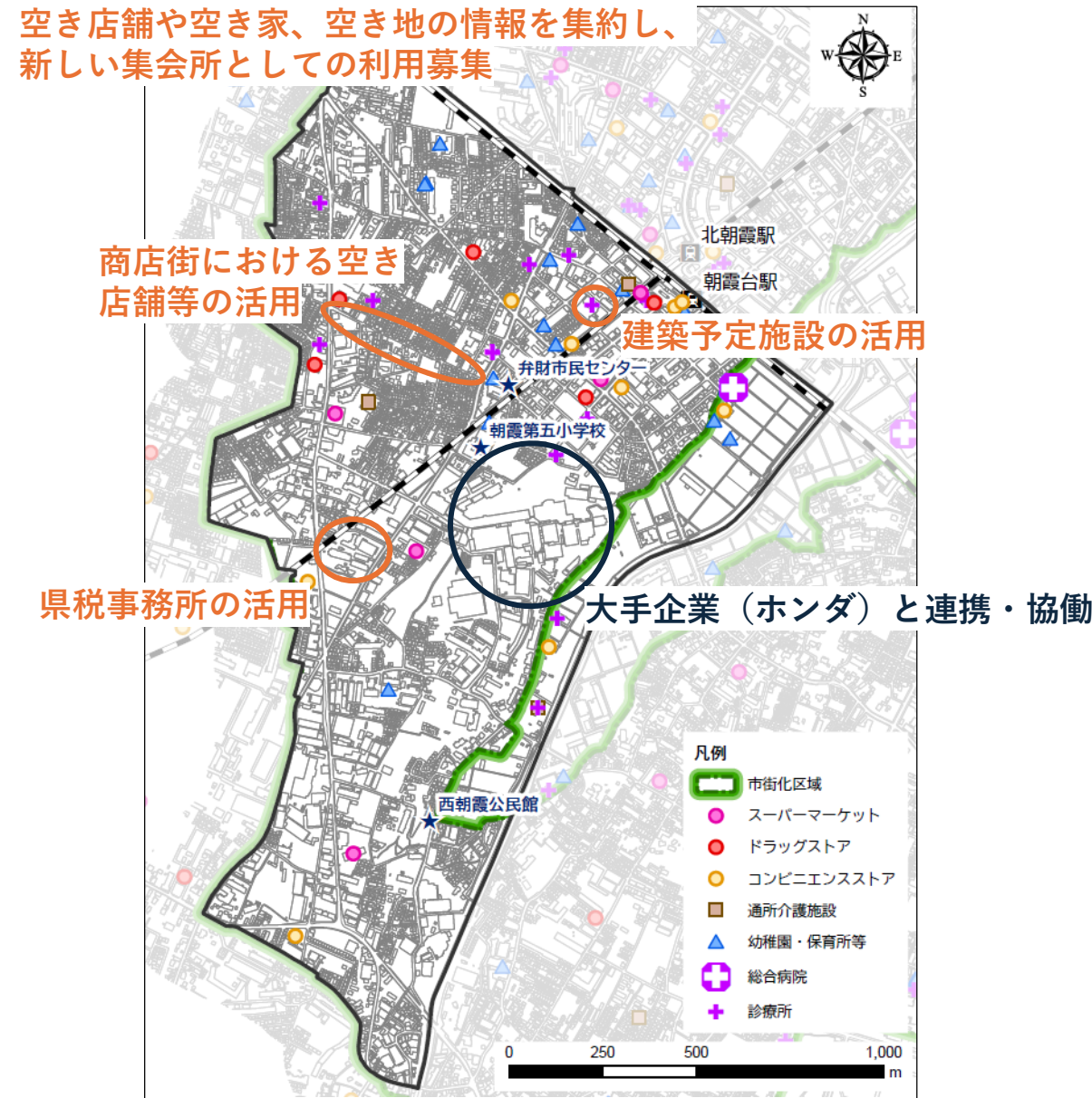
問題・困りごと	取組方針（目的）	具体的な取組	私たちからの提案
・全体的に道路が老朽化しており、劣化している箇所が多くみられる。 ・歩道が細切れになっている	・歩きやすい、安全に通行できる道路を整備する	・対面交通が多い五差路周辺のスクランブル化を検討する ・ハンプ設置やグリーンベルトを活用し、自動車の速度を制限する ・道路の一方通行化による歩行空間の創出を検討する	新しい交通手段を！ ホンダ、大学、公募有識者などで第三者組織を形成し、新しい交通手段について考えていく。
・公共交通の利便性が悪い	・コミュニティバスの利便性向上を図る ・新しい交通手段の導入を図る	・コミュニティバスのサービスターゲットを踏まえたルート見直しを検討する。 ・企業や研究機関と連携した新しい交通手段を検討する	道路の更新 区画整理を行う際に、道路の拡幅工事を図る。

グループワークと発表の様子



方針図の提案

空き店舗や空き家、空き地の情報を集約し、新しい集会所としての利用募集



方針図について、「既存ストックの活用」と「交通手段」の大きく2つの観点からの提案がありました。
「既存ストック」では、県税事務所や建築予定となっている複合施設などの高校施設だけでなく、商店街に立地している空き店舗や地域内にある空き家など、個人で所有している財産を含め、住民団体が所有者と直接交渉を交わすことによって、地域の交流の場として活用する提案、「交通手段」では、大手企業に協力をいただくように交渉し、新しい交通手段の利用によって移動利便性の向上を図る提案がありました。

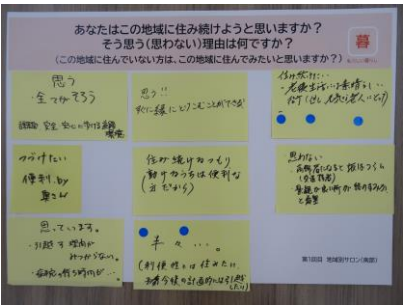
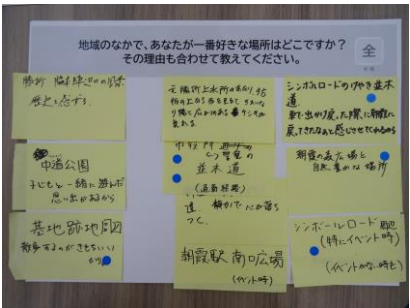
南部地域【第1回】

南部地域の「良いところ」としては、自然や歴史があり、住み心地が良いことが多く挙げられ、地域の特徴を表すキーワードでは、すべて地域の良いことが挙げられました。一方、「改善したいところ(課題)」では、坂が多いことやバスの本数が少ないことなどから、高齢者が出歩ける環境づくりについての議論がありました。

【ワークショップの様子】



【設問ボードの記入例】



全体

設問

地域のなかで、あなたが一番好きな場所はどこですか？その理由も合わせて教えてください。



意見の要点

シンボルロード等の市を代表する場所のほか、膝折の坂の上からの景色など、地域固有の景観資源を挙げる意見もありました。

全体

設問

この地域の特徴を表すキーワードを5つ挙げてください。



意見の要点

自然あり、歴史あり、住み心地が良いなど、挙げられたキーワードはすべてが良いこと（プラス）に関するものでした。

暮らし

設問

あなたはこの地域に住み続けようと思いますか？ そう思う（思わない）理由は何ですか？
（この地域に住んでいない方は、この地域に住んでみたいと思いますか？）



意見の要点

ほとんどが住み続けたいという意見ですが、高齢者になると坂が辛いことから住み続けたいとは思わないとの意見もありました。

賑わい

設問

駅周辺以外で、産業活動や経済活動、市民交流の観点から大事な場所はどこですか？



意見の要点

公共施設以外で地域で交流できるような場所（例えば居酒屋のような）が大事であるが、そのような場所が少なくなってしまうという意見がありました。

移動

設問

地域のなかで、普段移動するうえでの問題点は何ですか？



意見の要点

道が狭いこと、坂が多いことが問題となっており、それらを考慮した公共交通の確保が求められます。

安心・安全

設問

普段の生活のなかで、まちの「安全・安心」に関して不安に思っていることはなんですか？



意見の要点

交通安全（歩道がない、狭い）、災害への対応（火災対応や災害時のコミュニティ体制）、高齢化へ不安（出歩ける環境づくり）が挙げられました。

ワークショップで出された意見

- ・市役所⇔警察の並木道（通勤道路）
- ・シンボルロードのけやき並木道→出かけから戻った際に朝霞に戻ってきたと感じさせてくれるから
- ・朝霞の森広場と自然豊かな場所
- ・基地跡地周辺→散歩するのが気持ちいいから
- ・膝折→脇本陣辺の風景や歴史を感じる
- ・元膝折上水所の辺り→タ方板の上から西を見ると、きれいな夕陽と広がりのある景色が見れる など

ワークショップで出された意見

- ・コンパクトシティ、あさかセントラルパーク、みどりとみずのある街、歩きたくなる街、N.Y. Paris. Asaka.
- ・ファミリー、子ども多い、公共施設多い、駅のにぎわい、都市と自然の融合、
- ・けやき通りと跡地（森）、宿場町と歴史
- ・坂、駅近のみど里、マンション、新旧（住、工、商、人）
- ・自然、歴史、朝霞市の中心（公共的）、環境の良さ、住宅地
- ・公園、ファミリー世帯、住宅多い、緑あり+生活しやすい など

ワークショップで出された意見

- ・そう思う →老後生活には素晴らしい街（ただし、元気な老人にとって）
→動けるうちは便利な方だから
- ・そう思わない→高齢者になると坂は辛い（交通弱者）
- ・半々 →利便性では住みたい、今後の計画的には引越したい など

ワークショップで出された意見

- ・川の交叉辺りの整備と保全（田島緑地）
- ・市民会館、公民館、シンボルロード、あさかの森、市役所前広場、公園
- ・膝折宿、地域交流の場所、居酒屋
- ・駅周辺でたむろする場所が今ない など

ワークショップで出された意見

- ・道が狭い（歩道の確保）、バス本数が少ない、夜間は時に自転車が多い
- ・公共バスに代わりえる乗り物が必要
- ・車が多い、10km/hほどで走る（狭い道） など

ワークショップで出された意見

- ・歩道環境がない、狭い→自転車の走行が怖い
- ・町なかに椅子が必要
- ・防災体制が十分ではない、町内会活動の低滞、町内会加入人数の減少
- ・火災時の消防車、倒れた時の救急車

南部地域【第2回】

まちづくりの5か条(将来への想い)

暮らし

子どもから高齢者、障がい者も安心して暮らせる環境づくり

議論の要点
比較的子どもが多くファミリー世帯が暮らしやすい反面、坂が多くて高齢者が暮らせるのは元気なうちだけ、といった議論から、どの世代・属性の方々にとっても暮らしやすいまちを目指すこととしました。

快適な移動

高齢化に対応した持続可能な移動手段の確保

議論の要点
高齢者にとって移動手段は必須だが将来的にも持続可能な公共交通にしなければならないといった課題から、住民もバスにあえて乗らなければ残せない、自動運転などの技術を活用する、などの意見がありました。

安心・安全

狭いみちでも安全で、いざというときにも安心

議論の要点
道が狭い、歩道がないといった課題が多く聞かれ、狭い道でも安全・安心でいたいという意見がありました。

賑わい

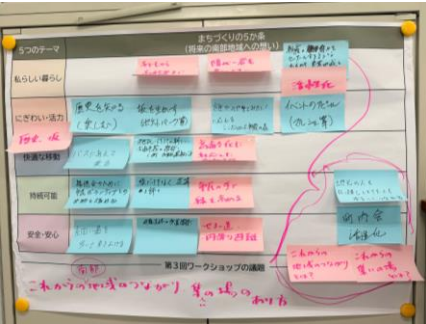
歴史や地形を公民で活かして朝霞を楽しむ

議論の要点
商店街などの賑わいを高めるだけではなく、膝折宿や坂の多い地形といった、ここにしかない歴史や地理を楽しんでもらいたい、一方で歴史を残していくために公・民が連携する必要がある、といった意見がありました。

持続可能

市民の手で緑や環境をもっと良くしていく

議論の要点
緑を増やしたり残したりすることを行行政任せにするのではなく、市民ボランティアの力を合わせる、緑だけでなく花を飾って楽しむ、といった参加型で緑の保全・創出を目指す意見がありました。



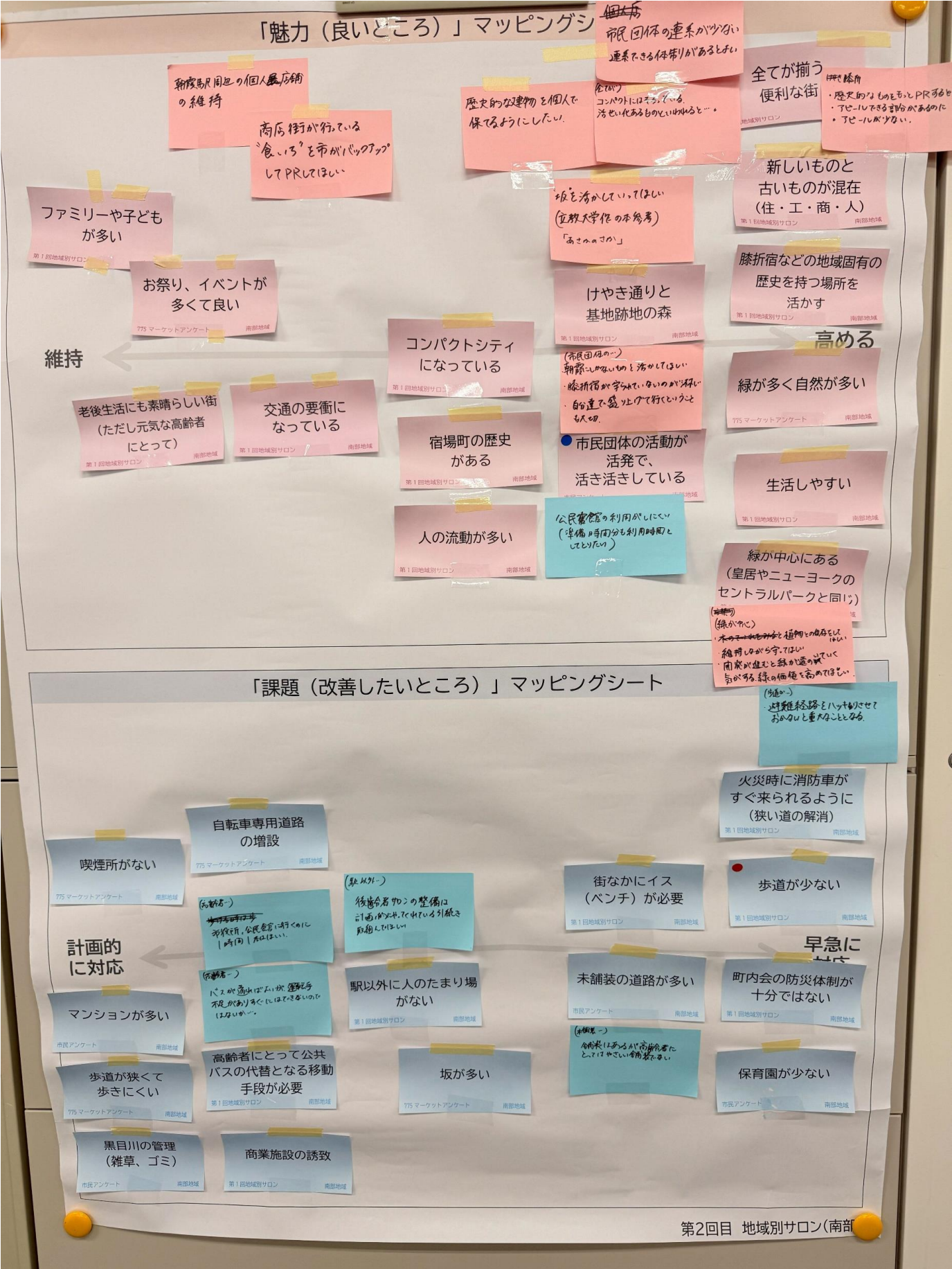
次回の議題

これからの南部地域のつながり・集いの場のあり方

南部地域では、比較的転入してくる方が多い地域であることもあり、地元の人と引っ越してきた人がゆるくつながることへのニーズや、高齢化が進む地域における町内会のあり方など、「人と人のつながり」や「集うことができる場所」について関心が集まりました。

そのため次回はまちづくりの5か条すべてに関係する議題として、「これからの南部地域のつながり・集いの場のあり方」について話し合うことにしました。

【マッピングシート「魅力」と「課題」】



南部地域では、町内会や市民活動に関わる方が多く参加されたことから、「これからの南部地域のつながり・集いの場のあり方」というテーマに集中して議論を行いました。地域への関心をどう高めるのか、知り合ったり繋がったりするにはどうすればよいか、地域の分断や移動の制約に対してどうすればよいか、集まる場所や困りごとを相談できる場所はどうか、といったことについて話し合いました。

※下記枠内のうち【 】内の番号とページ
下部にある地図上の番号が対応しています

取組内容とその役割分担

- ・自治会加入者が減り自助の働きが弱まっている
- ・防災などいざというときのつながりの弱体化
- ・まちづくりや歴史・伝統の継承といった意識が希薄

- ・自治会が何をしているのかわからない
- ・どのような集まりが必要とされているかわからない
- ・近所の人でも、好きな場所は？趣味は？といったことを知るきっかけがない
- ・他の地域からの流入の不便さ

- ・市内移動と市内バスが不便なこと
- ・移動ができない人とつながることができない
- ・地域間の移動が不便（心理的にも）
- ・インフラが南部に集中している

- ・集まる場所が少ない、あっても周知されない
- ・新しくつくるのではなく、いつも行っている場所で集まれないのか

・畑の土が道路に流れ込む、照明が少ないなどの問題をどこに相談すればよいかわからない

- ・町内会の案内を工夫する、 インスタなどSNSを利用する

- ・人と人をつなぐ（まわす）人を育てる
- ・ボランティア団体の育成と連携

- ・大型のイベントは知り合うきっかけづくりとなる（ストリートテラスやあかりテラスなど）
- ・マンション交流会を立ち上げる
- ・ドラッグストアなど、市民がいつもいく場所に掲示板を設けてもらう（民間の施設を活用する）

- ・車の配車や食料品の調達などを共同で行う
- ・シェアサイクルの周知

- ・集まる場所をつくる。公共施設だけでなく、ドラッグストア、個人宅、スナックや居酒屋などでもOK
- ・新しいたてものはいらない！

- ・市長への目安箱（あることを知らない）
- ・おせっかい焼きが増える

市民の力をどう
育てるか？

市民の力をどう
やったらうまく
活かせるか？

凡例

- 市街化区域
- スーパーマーケット
- ドラッグストア
- コンビニエンスストア
- 通所介護施設
- 幼稚園・保育所等
- 総合病院
- 診療所

0 250 500 1,000 m

例えば・・・ドラッグストアに掲示板を設置すると？
⇒・市民はいつもいく場所で簡単に情報が得られる
・お店はお客さんを獲得できる
つまり、考え方次第で「官」ができないことを「民」で補完できる！



南部地域【第4回】

南部地域では町内会関係者やコミュニティづくりに関心が高い方が集まったことから、第3回・第4回では人々の繋がりや集う場所に関する議論に集中しました。

市民力の育成や市民の力を引き出す仕組み、といった観点から議論し、義務感で行う活動ではなく「やりたい」で集まるゆるい繋がりを大切にすることや、その「やりたい」を実際にチャレンジできる場と機会を用意することで市民の力を育てる、といった提案がありました。

取組の提案

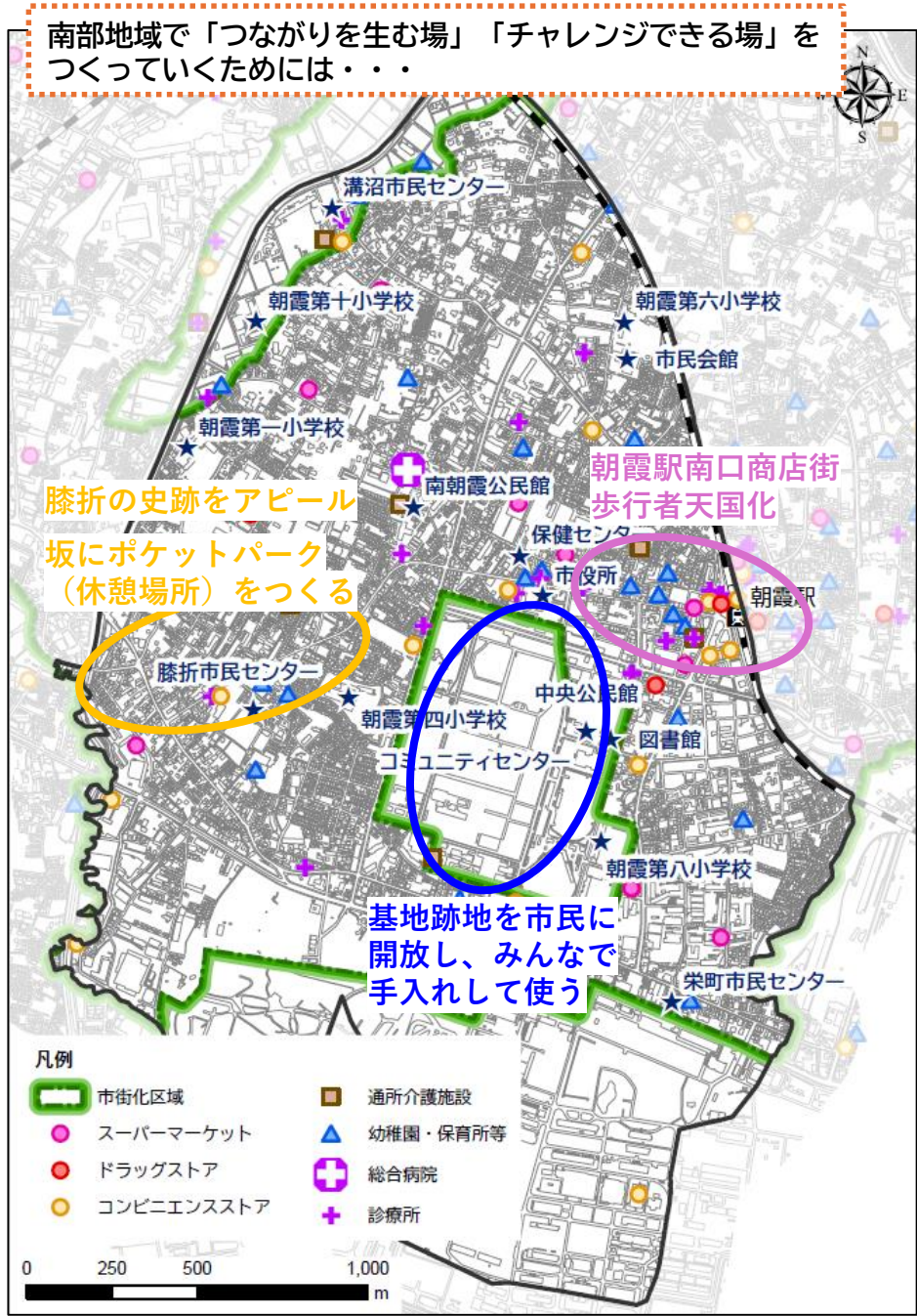
重点課題:これからの南部地域のつながり・集いの場のあり方

問題・困りごと	取組方針（目的）	具体的な取組
【地域への関心】 ・自治会加入者が減り自助の働きが弱まっている ・まちづくりや歴史・伝統の継承といった意識が希薄	・情報の発信	・町内会の案内を工夫する ・インスタなどSNSを利用
【知り合う・つながる】 ・自治会が何をしているのかわからない ・近所の人でも知り合うきっかけがない	・つなぐ人を育てる	・人と人をつなぐ（まわす）人を育てる ・ボランティア団体の育成と連携
【移動不便、地域分断】 ・移動できない人とつながることができない ・地域間の移動が不便（心理的にも）	・知り合うきっかけをつくる	・大型のイベントは知り合うきっかけづくりとなる ・マンション交流会を立ち上げる ・ドラッグストアなど、市民がいつもいく場所に掲示板を設けてもらう
【集まる場所】 ・集まる場所が少ない、あっても周知されない	・移動手段の確保	・車の配車や食料品の調達などを共同で行う ・シェアサイクル周知
【困りごとをどこに相談できる？】 ・困りごとをどこに相談すればよいかかわらない	・あるものを使って集まる場所をつくる	・集まる場所をつくる。ドラッグストア、個人宅、スナックや居酒屋などでもOK ・新しい建物はいらない
	・困りごとの相談先がわかる、助け合う	・市長への目安箱（あることを知らない） ・おせっかい焼きが増える

グループワークと発表の様子



方針図の提案



南部地域では「「つながりを生む場」「チャレンジできる場」をつくっていくためにどんなまちづくりをしていくべきかという視点から意見を出し合いました。その結果、朝霞市を代表する基地跡地の緑をみんなで使えるようにする、膝折の史跡をもっとアピールする、駅前の商店街を歩行者天国化する、といった提案が出ました。